

【議事】定 4

(1) 国際宇宙ステーションの日本の実験棟「きぼう」(JEM)に係る安全の確保に関する調査審議の結果について

安全部会長を務めた池上委員が資料 4-1(安全対策について:1月 30 日(火)安全部会審議結果)を報告した後、下記のような簡単な質疑応答があった。

松尾:特記事項はありませんか。

池上:これはあくまでも人命に対してどうかと言う話でありまして、委員は複合して起こることを心配すると云う話があった。そのことは、ハザードファインディングという形で、現在起こりうると想定できることを全て拾い上げて、それに対する対策を行っている。実際に ISS の飛行士がオペレーションする場合に、「想定していないことも起きるかもしれない。」と云う指摘があった。今回は、個々の装置について、完全条件を満たしているかを審議したが、プロセスとしてはこの結論どおりでよろしいなと考える。

青江:安全というのは人の命及び人に対する障害を議論しているの
であろう。ロケットの打上げの安全というのも同じですね。

松尾:そのように理解しています。

青江:機能不全に陥ったってどうってことは無い。

松尾:人命が対象だと思います。

池上:機器のトラブルが起こった場合にはそれを切ってしまう。無能化することが基本的な考え方です。

青江:機能が果たせないようになろうが何しようがお構いなし。

池上:先ずは人命です。

青江:人命ないし人が怪我することが無いようになっているかを見

た。

池上:そういうことです。

松尾:これは了承を必要としているのですが、これで良いですか。

異議が無かったので了承された。

以上の議論は、安全部会の審議の基本に係る大事なことであり、正しく議論が進んでいるようであるが、違和感があった。

今回の安全部会の報告は、衛星の打上げに関する安全部会報告とは全く体裁が異なり、極めて短い物(A4 で 1 ページ)であった。この文章を読んで、安全部会に議論されたことや、確認されたことが何も伝わってこない。衛星打ち上げの場合は、JAXA が用意した資料ではあるが沢山の図が添付され、安全な飛翔経路を取っている事や、どのような危険物・毒物があり、それが管理されていることが確認できた事や、沢山のメッセージが付いている。

青江委員が本当に言いたかったのは、この報告では審議したことが良く伝わらなくて、報告を受けても「安全であろう」と信頼できないと云う思いだったのではないかと云うことだ。

JEM 搭載機器の安全審査基準、及び審査結果報告について、再考する必要があるようだ。